

第1回 保育実習に係る保育士養成校と保育所等との意見交換会 概要

開催日時：令和6年6月20日（木）

開催場所：神奈川県庁本庁舎3階大会議場

参加者：保育士養成校 15名、保育実習受入施設 60名

テーマ：①実習生への指導方法について ②実習日誌の多様な記録について

意見交換会内容紹介

テーマ1：実習生への指導方法について

<グループA>

- ・養成校はガイドブックを作って指導している。身だしなみ、言葉遣い等の社会人として基本的なことを伝えている。わからないところは自分でそのガイドブックを調べる、読んで聞くというような、癖付けを養成校側は行っている。
- ・実習日誌の書き方は、養成校としてとても重要視して教えている。実習指導が15コマあったとしたら、6コマぐらいはそこに割いている。メモをとる練習、記録に書きおこす練習、言葉の使い方、「何とかさせる」と書いてきた学生には、「どういうふうにかいたらいいかな」と指導している。

<グループB>

- ・実習受入施設として、学生へどこまで伝え、指導した方がいいのか、学生の思いを受けとめる中でバランスも必要ではないか、と難しさがある。学生の特性がわかると、より対応しやすいので、養成校と保育園との事前のコミュニケーションがとても大事ではないか。
- ・伝える際の工夫として、年齢の近い職員が実習生を担当し、実習生から相談しやすい環境を作り、指導では「前は私はこうだったよ」というような形で若い視点で伝えることができるのではないかとということが上がった。

<グループC>

- ・実習を楽しんでほしい。楽しければ心も動く。「子どもはこんなふうを感じているんだ」、「子どもの気持ちを大切にしたい」と、楽しまない実習生も感じないのではないかなと思う。「失敗してもいいんだよ」、「ここでうまくできたね」と褒めて、楽しい実習になると良い。そのためには事前オリエンテーションが必要であると思う。楽しむことのはき違いを持ってしまうかもしれないので、そのあたりをオリエンテーションで伝えていくと良い。
- ・「見ていてくれる」、「受け入れてくれる」ということが安心感に繋がるので、実習生へ安心感を与えながら、現場は楽しく保育をしていこうとする思いが大切である。

<グループD>

- ・保育士は命を預かる仕事であるので、責任感のある仕事であることを実習生一人一人が受けとめて、実習を行ってほしいと養成校の先生からお話があった。それを踏まえて、私たち実習受入施設も保育士の仕事の魅力を伝えていきたい。

テーマ2：実習日誌の多様な記録について

<グループE>

- ・日誌の修正については、直した箇所は消さないように実習生へ指導している実習受入施設があった。正解を書いてしまうと、何が間違っただけでそのようになってしまったか、わからないため、そのように指導している。

<グループF>

- ・ 日誌の記入が大変で帰っても寝れないという実習生もいる。パソコン入力は「やりやすい」、「睡眠時間が確保できる」との声が実習生から上がっている。
- ・ その日の出来事を日誌に記入する実習生が多く、考察を書いてほしいので、養成校では3つの目標を実習生に立ててもらい、そこに関して記録するよう指導している。テーマを決めることにより、その視点をもって日誌を書くことができる。

<グループG>

- ・ 子どもの関わりを楽しんでもらい、深掘りしていくため、先生が声をかけて、一緒になって記録を作り上げ、その中で子どもの気づきを大切にしてほしいことを伝えている実習受入施設があった。
- ・ ICT化が進んでいる中で実習受入施設側が追いついておらず、指導できない面もある。実習生とともに学び合い、高め合っていくために実習受入施設側も変わっていく必要がある。

感想

- ・ 今回、初めて参加させていただきました。養成校の実情や生徒さんを受け入れるにあたっての対策など知る事ができました。意外にも養成校側からは実習中はそれなりに厳しくして欲しいというお話があったので優しく教えるだけではなく、命を預かる現場としてしっかりと現実を伝えることの必要性も感じました。また、他の施設の方のお話も聞き、同じ問題や課題がある事も認識出来たこと良かったです。今後も様々な養成校の方とのお話が出来たら嬉しいです。保育士不足の解消も避けたく、保育士になりたい園作りとアピールを頑張ろうと思いました。
- ・ 他園の実習内容や養成校からの意見などを聞くこと、質問に答えていただき学びが多かったです。
- ・ 神奈川全域を対象に県庁での開催に身が引き締まる思いでした。地域が違う中で思いは近い事を認識しました。また養成校の先生方と意見交換できる場は貴重な為、今後ともよろしく願いいたします。
- ・ 初めて参加しました。資格は取るけれどもそれを活かした職業に就かない、そもそも選択しないという現実を知り、残念であり不安になりました。その原因が実習生を受け入れた保育施設に問題があるという現実を知り、悲しくもあり憤りを感じました。学生さんの未熟さも踏まえつつ、現場を伝えていく保育者の後進の指導法も考えていかなければいけないと感じました。

